


2023 ~ 2024 年度国際ロータリーのテーマ

世界に希望を生み出そう

●会長 中島 祐爾

●幹事 緒方 公一

 No.1827 令和 05 年 07 月 26 日 第 04 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30~

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

 ※ URL <https://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org


世界に希望を生み出そう



■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング 「それこそロータリー」 (ソングリーダー 古田哲朗)



■マルチプル・ポール・ハリス・フェ ロー記念のピンの贈呈

松本一也 会員 2,000 ドル



○会長の時間 (会長 中島祐爾)



ロータリーソングの起源

日本のロータリークラブまた我々の熊本東南ロータリーでも例会でロータリーソングを合唱します。毎回ソングリーダーの古田会員または彌富会員にはお世話になっています。

この習慣はロータリーの創立当初(1905年)からではなく、ある興味深い事件から始まったと聞いています。

1905年創立当初のシカゴクラブは会員同士の「親睦」と「物質的相互扶助」が主たる活動目的でしたが、1907年ポールハリスは「社会貢献」と「クラブ拡大」を活動目的に追加しました。さらに1908年入会したアーサー・フレドリック・シェルドンが「奉仕」の必要性を強調したため、シカゴクラブは「親睦・互惠派」と「奉仕・拡大派」に分かれてしまい、例会のたびに激論が交わられるようになったのです。

そこでそんな雰囲気を和らげようと、歌好きの会員で「親睦・互惠派」だったハリー・ラグレスは、ある例会で椅子の上に飛び上がり、「さあ、一緒に歌おう」とみんなに呼びかけたそうです。その後、例会ではハリーの指揮で歌うことが習慣となり、多くのクラブに波及していったそうです。

諸説ありますが、これがロータリーソングの起源と言われています。しかし、最近のアメリカの例会では、先日紹介した国歌斉唱やロー

タリーソングまでも合唱しないクラブが多いそうです。アメリカ以外の国の例会でも国歌やロータリーソングを歌わず、お祈りで始まるという国もあるそうです。また他では「Call to Order (お静かに願います)」の開会宣言だけで例会が始まるクラブもあります。

日本の場合は、今でもほとんどのクラブで例会の最初にロータリーソングが歌われています。創立当初からの良き伝統や習慣を重んじる日本ならではのようです。うちのクラブでは、毎月の第一例会でクラブソングも歌い、伝統・習慣にプラスしての不易流行を大切にしていると思います。いいものは続けていきましょう。最後に「手に手つないで」はクラブや地区で行われる懇親会の最後に、参加者全員が手をつなぎ大きな輪になって合唱する際の歌です。ここ数年は新型コロナの影響か感染防止の観点からも歌っていませんが、もうしばらくすると最後に「手に手つないで」を合唱が再開されると思います。コロナ期間中に入会されたメンバーの方はまだ経験されてないと思います。最初は照れ臭い感じもありますが何回かやっているうちに慣れてくるものです。そうならば立派なロータリアンの仲間入りですかね？

■幹事報告 (幹事 緒方公一)

■来信案内

1) 膳所和彦 ガバナー、堀川貴史 ガバナー氏名委員会委員長より、ガバナーノミニ・デジグネート(2026~27年度ガバナー)候補者推薦について(藤田千(ち)克(か)由(よし)ガバナーノミニの方)

1. 提出期限 2023年9月20日(水) 必着

2. 提出先 〒860-0807

熊本市中央区下通2-7-7 アールテラス 4F
地区事務所内 ガバナー指名委員会 宛

2)

熊本西RCより、2023~2024年度 第1回 熊本市域RC 会長・幹事会の案内。

日時 2023年9月26日(火) 午後2時30分~

場所 ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ 2F「平安」

■クラブより

1)

本日例会後に、創立40周年実行委員会を開催いたします。



■出席報告 (出席・プログラム担当 小竹 誠)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率 (%)
07月12日	45 (免3) 42	32	5	37	88.10
07月26日	45 (免3) 42	26 Zoom1			61.90

☆出席免除

07月12日、07月26日

住江正治 島村徹男 志賀重人

☆欠席者

07月12日 (5名)

川崎直樹 徳永貴子 山本浩之 矢野敬之 吉永陽三



■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員 生駒ちあき)



◎宮川義行 4,000円
1ヶ月ほど前に、三重県で4才の女の子

が母親の暴行で死亡しました。女の子は2019年にこのとりのゆりかごに預けられ、県内の乳児院や三重県の施設を経て2021年に家庭復帰しましたが、今年5月に母親が女の子をテーブルの上から床に転倒させるなどの暴行を加え死なせた疑いで逮捕されました。「せっかく生き延びた命がこういう形で失われたことは非常に残念」との慈恵病院 蓮田院長のコメントがありました。ゆりかごから、捨てた親元に帰るシステムがあることにおどろきました。養子縁組で里親になるのも厳しい審査があり何度も自宅訪問されるのにとおりました。



■卓話 (新年度方針)

○奉仕プロジェクト委員会／国際奉仕担当 山田公也 委員長



活動方針

- (1) ロータリー財団部門、米山奨学部門 とタイアップしてグローバル補助金、地区補助金を通じて国際交流をバックアップしていきたいと考えます。
- (2) ウクライナ支援を実践できた我がクラブは、次へのステップとしてポーランド ジェシェフ・ロータリークラブもしくはウクライナ リヴィウ・ロータリークラブとの交流を絶やさず、次回への支援に備える。
- (3) 出前セミナーの実施。地区内で国際交流希望クラブとのマッチングサポートを実施していきます。

実施計画

- (1) 姉妹クラブである台湾板橋南區扶輪社とのグローバル補助金活用に挑戦し、国際奉仕活動が実施できるよう支援する。
- (2) 国際奉仕に関連するラオス視察を実施し、グローバル補助金活用の為の資料を収集し、勉強会を開催する。
- (3) フィリピンの里親制度支援を継続していく。
- (4) 2024年5月ロータリークラブ シンガポール国際大会に積極的に参加することを奨励する。

○職業奉仕担当 古田哲朗 委員



活動方針

職業奉仕の実践を試みる。具体的には、四つのテストの内容を理解して、実際に使える準備をする。また、職業奉仕の実践を通して、ロータリーストーリーを作成し、ロータリアンの増加を図る。

実施計画

- (1) 職場訪問を実施して、職業奉仕の実践を考える。
- (2) 職業奉仕に関する卓話を依頼して、職業奉仕を考える機会を増やす。
- (3) 毎月の初回例会において、四つのテストの唱和または歌唱をおこなう。

○社会奉仕担当 宮川義行 委員



活動方針

- (1) 当クラブが長期に渡って行ってきた慈愛園サマーキャンプ、泉ヶ丘校区伝承遊び支援及び交流がコロナの中、中止をよぎなくされてきた現状から、今年度は復活を目標にしたいと思っております。児童福祉施設自転車購入支援を継続して行います。
- (2) 子供達を対象とした新たな奉仕活動を模索する。
- (3) ポリオ根絶に向けて支援を行ってまいります。

実施計画

- (1) 慈愛園サマーキャンプ支援と交流
- (2) 泉ヶ丘校区伝承遊びの集い支援と交流
- (3) 児童福祉施設高校入学生通学自転車購入支援
- (4) 関係委員会と連携してグローバル補助金の活用を検討する。
- (5) その他社会奉仕活動にふさわしい取り組みを検討する。

○青少年奉仕担当 杉本整哉 委員



活動方針

- (1) アクト例会へ出席し、アクトの活動内容を把握する。
- (2) アクト例会を活発化させるためにも、東南ロータリー会員の アクト例会への参加を促す。
- (3) 東南ロータリーが行う行事(家族会・クリスマス会等)にも、アクト会員を招待し、親睦を図る。
- (4) アクトが行おうとする事業について、出来る限りの協力を行う。

実施計画

- (1) アクトの会員増強について、サポートし協力する。
- (2) 青少年奉仕月間にはアクトから卓話者を招いて卓話いただく。
- (3) 東南ロータリーが行う奉仕活動に、アクト会員を招いて、共同で取り組む。
- (4) アクトの活動内容を、東南ロータリー会員へ伝える。
- (5) アクトの活動に対して、一緒に協議し取り組む。
- (6) アクト主催の奉仕活動について、東南ロータリー会員へ参加を促す。

○姉妹クラブ担当 福井学 委員

活動方針

- (1) 我がクラブ創立40周年の周年行事に姉妹クラブ・友好クラブ（台湾、和歌山、宇佐）を招聘し開催する為にも成功に向けて全会員が協力する。
- (2) 台湾板橋南區扶輪社、和歌山東南RC、宇佐RCとの親睦と友好を深める。
- (3) グローバル補助金活用の為に台湾板橋南區扶輪社と計画・協力・行動する。
- (4) 交換留学生の応募については積極的に対応する。

実施計画

- (1) 和歌山東南RCへの40周年の案内と50周年行事が開催される場合は参加する。
- (2) 40周年は姉妹クラブ・友好クラブ（台湾、和歌山、宇佐）より参加される為、思い出に残る周年行事になるように努力する。
- (3) 姉妹クラブとの親睦と友好を深めるためにも合同オンライン例会やWebミーティング等の開催を計画する。
- (4) グローバル補助金活用については長期戦略委員会と連携し具体的に検討する。
- (5) 交換留学生の募集がある時は、各会員に参加を募る。

○長期戦略委員会 永野昭一 委員長

活動方針

これまでの長期戦略委員会の基本理念である「Joyful and Good」を継承し、会員一人一人が熊本東南ロータリークラブに入会して良かったと思えるクラブ作り、いつも生き生きとしたクラブ作り、時代に対応したクラブ作りへの指針を考え、会員全員で共有し、より良いクラブ作りを目指します。

その為には、クラブの現状、課題を毎年見直し・再認識し、めざすクラブのあり方を会員全員で考えることができるようにしたいと思います。

また、ロータリーを学ぶ機会をクラブ内で今以上増やすことで、ロータリーの魅力を感じることができるシステムづくりをしたいと思います。また、今年度はグローバル補助金プロジェクトを立ち上げ、次年度実施に向けての具体的な活動を行います。

実施計画

- (1) 長期計画書（2023/7—2025/6）の作成
- (2) クラブ内研修リーダー、委員会の新設検討
- (3) クラブ運営管理（事務業務、会費等）体制の改革検討（案）の策定
- (4) クラブフォーラムにて、クラブ造りに関するディスカッション開催
- (5) グローバル補助金プロジェクトの発足と次年度実施に向けての具体的な活動
- (6) 奉仕プロジェクトと協力し、今までにない新たな奉仕活動の検討



■米山奨学生夏季セミナーについて

(山田公也 米山奨学生選考委員)

「2720 地区米山記念奨学部門 2023 学年度夏季セミナー」

開催日：令和5年7月22日（土）～23日（日）

場所：日田市羽田多目的交流館

- ・先週日田の廃校が青少年の家になっている。
- ・米山奨学生の夏季研修を開催しました。



■グローバル補助金進捗報告

(彌富照皇 会員)



■慈愛園テーブルマナー講座の件

(幹事 緒方公一)

現在参加者は慈愛園5名職員3名です。
@ 5,620 円の実費で参加できます。
案内を再度流します。

■点鐘

編集者 松尾 浩

----- ロータリーボイスより -----

素人にチャリティ開催は無理なのか？ 日本のアクトが導いた答え

投稿日：5月17, 2023 投稿者：rotarymasa

ローターアクトに参加してから、ずっと考えてきたことがあります。「いつか自らの手で企画をして社会の役に立つ活動をしたい」2019年に入会してから、実に4年という歳月を経て、ようやくその願いが実現できました。そうして生まれた企画が、ファンドレイジング型チャリティ「Walk in Blue」です。

ただ、その実現までには長い道のりがありました。

寄稿者：柿本知樹

(名古屋熱田ローターアクトクラブ、
Walk in Blue 実行委員長)



<海外のチャリティに出会い、衝撃>

私が名古屋熱田ローターアクトクラブに入会したのは2019年7月のことです。ちょうど、その年の11月22～24日に上海での海外研修がありました。これがその後の転機となるのですが、私はこの研修へ参加できたことに運命を感じています。それというのも、コロナ禍になる直前の抜群なタイミングでの渡航でした。年明け以降なら飛行機は飛ばなかったかもしれませんが。登録期限が入会の翌月だったこともあり、もう少し入会が遅かったら私は上海へ行くことができなかったのです。そのようにして参加できた上海での研修は、私たちに大きな衝撃を与えました。その最たるものが、上海ローターアクトクラブが主催しているチャリティマラソン「RUN IN BLUE」です。これは、青いシャツを着て走るというチャリティイベントで、参加費として集まった費用は支援金として用いられます。上海ロー

ターアクトクラブでは子どもへの支援を行っていました。一つのローターアクトクラブが大規模な社会奉仕事業を開催することに驚きを持ったと同時に、人や社会の役に立ちたいという強い想いが感じられるイベントでした。日本から参加したメンバー全てが胸を打たれたはずで。

<海外のチャリティを日本へ輸入>

上海の研修へ参加したメンバーの一人が、この RUN IN BLUE に深い感銘を受けて、日本への輸入を決意します。国際ロータリー第 2760 地区ローターアクトによる主催で、2021 年 11 月 23 日に愛知県豊田市で RUN IN BLUE JAPAN を開催しました。これにより集まった支援金 67 万円は、発達障がいのある子どもを支援している豊田市子ども発達センター「ひまわり」へ寄付されました。実際に、参加した方から「身体を動かして、健康にも良くて、支援ができるなんて素敵です。来年も参加したい」との感想をいただきました。嬉しくて有難いお言葉で、やってよかったと実感しました。しかしながら、この RUN IN BLUE は毎年開催していくには高いハードルがあり、課題を残す結果になったのです。

<課題を乗り越え、リメイクへ>

その課題というのは大きく分けて二つあります。一つは運営面での負担です。開催前に公園の管理団体にご挨拶へ行っただけ、次のことを言われました。

「素人がマラソンを企画するなんて無理ですよ」

その時はただただ、えっ!? という気持ちしかなかったのですが、実際にやってみたら、許可申請が煩雑であったり、ルートの途中途中でスタッフが立って誘導が必要であったり、必要スタッフ数も膨大で、走るペースはみなさんももちろんバラバラ。てんやわんやでありました。

二つ目は、「取り組みは凄く素敵だと思いますが、走ることはできない」という声が非常に多かったことです。せっかく気持ちがあるのに参加できないことは残念なことです。

このような課題もあり、第 2760 地区ローターアクトは 2 回目の開催を断念。しかし、せっかく日本へ輸入したわけですし、このチャリティは次世代へと継承していきたいという気持ちが私にはありました。運営負担を最小限にし、老若男女誰でも参加できるかたちでモデル構築ができないかと私は頭を悩ませました。そして、答えが浮かび上がったのです。「そうだ、歩けばいいじゃないか!」歩くようにすれば、みなさん同じペースです。その中に誘導スタッフがいれば、スタッフも一緒に参加できる上に、途中の案内人も必要ありません。走るのと違って、歩く場合は必要な許可も簡単です。歩くだけなら走るよりも参加できる人はずっと増えるはずで。そういう経緯で、チャリティのリメイクを考案し、企画へと移していきました。この企画は、名古屋熱田ローターアクトクラブの単独主催として、夢の実現へと向かって動き出します。

<持続可能な開催モデルの構築>

Walk in Blue の企画にあたって、私が特に意識したのは、ずっと続く取り組みにすることです。

その上で気を付けたポイントが 3 点あります。

1. 開催費用を全額、資金調達すること：これまで名古屋熱田ローターアクトクラブの事業は、スポンサークラブの支援に依存してきました。そこから脱却し、ファンディングでの資金調達を決意します。
2. 必要経費を最小限にすること：今回の Walk in Blue でかかっ

た費用のほとんどは、青シャツ 100 枚と記念誌 100 部の印刷費で全体の 80% ほどを占めます。必要経費をコンパクトにすることは、資金調達のハードルを下げることに繋がります。

3. 寄付金は開催費用以上にすること：寄付金が開催費を下回れば、開催費を全額支援した方が有意義だと感じます。今回は開催費の 128% にあたる 231,000 円の支援に成功しました。

さらに、ここから持続可能な取り組みにしていくための「仕掛け」を用意しました。それは、集まった参加費の 70% を寄付金とし、残った 30% を次回の開催費へ回すということです。今回は参加費 33 万円が集まりましたので、次回には 99,000 円の予算が手元にある状態で始まります。70% としたのは、開催費の 100% を上回る確実なラインだと判断したことからです。これを順繰りすることで、補助金に頼らない半永久的に実行可能な社会奉仕事業モデルが構築できます。

<ファンディングの実施>

さて、資金調達をするにあたって利用したのはクラウドファンディングでした。これで当初は全額開催費用を調達しようと考えました。しかしながら、なかなか調達は伸び悩み、結果的に開催予算の半分ほどしか集まりませんでした。実行に移せないかもしれないという現実と向き合い、数日間ほとんど眠れなかったです。とにかく何かアイディアは無いかと必死に考え、出した答えは資料を持ってスポンサーになりうる方へプレゼンテーションに行くことです。資料と想いを掲げて挑戦したところ、無事に開催できる金額が集まりました。集まった瞬間は 15 分ほど、呆然と立ち尽くしたのを覚えています。

<支援にける想い>

寄付金交付式



私は日頃から NPO 活動に興味で携わっていて、それもあって支援に対して想いがあります。地元地域で人や社会のために熱心に頑張っている方々を知っています。受理した寄付額の範囲でやりくりして、大きくない金額であったとしても、できることはたくさんあると信じて努力している NPO を私は見てきました。そこで、選んだ支援先というのは、名古屋市

で長年環境保全に取り組んでこられた NPO 法人「藤前干潟を守る会」です。名古屋熱田ローターアクトクラブもこれまで環境活動に熱心に取り組んできたこともあって、シンパシーを感じました。同会の理事長は、驚くことに 30 年環境保全に取り組まれてきた方でした。支援金は子どもたちへの環境啓発活動に充て、干潟を守っていく継承者を育てるために使用されると聞きました。そのような素晴らしい活動に寄付できたこと本当に嬉しく思います。

<地域団体と繋がるクラブ>

このようにして、名古屋熱田ローターアクトクラブは NPO 法人「藤前干潟を守る会」と関係を持つことができました。寄付金を届けることができたことに加えて、活動先として私たちはボランティア参加することも可能です。年に 2 度ほど大規模な清掃活動をしてもらえるそうなので、来年度は干潟の清掃活動へ参加します。Walk in Blue は来年度の開催が既に決定しています。支援先の団体については毎回変わります。将来的には名古屋熱田ローターアクトクラブと繋がる地域団体が増えていき、社会がより良くなるのが私の願いです。普遍的な価値を社会へ提供できるクラブをこれからも目指していきます。